



▼私の区では、未だ図書館の委託交渉が続いているが、世間ではもはや業務委託は話題にもならなくなり、すっかり指定管理者制度をめぐる議論になりつつあるようだ。もちろん今後の図書館の行方を左右する大問題ではあるのだが、この前までそれほど騒いでいた業務委託の問題が何も解決されないまま、あたかも既成事実化していく状況に、あまりにも移り気なものを感じてしまうのは、私だけだろうか。

すべての図書館に今後指定管理者が導入されるわけでもないだろう。業務委託のままのところもあるだろうし、すべて直営職員で行う図書館も残るだろう。また受託者も民間業者ばかりでなく、ZOOなども増えている。いわば図書館の「大競争時代」といえるのかもしれないが、そ

の中で一番大事なそこで働く人々の問題が、議論の中で忘れられているような気がする。

日図協や図問研などの大組織でも、非常勤職員を含めたこれらの人たちを仲間として、知識や技術を伝える後継者として取り込んでいこうとする試みは、スローガンを除いてほとんど行われていないし、そもそも会員自体が非常に少ない。

この「すぼん」の編集委員も含めて、一九七〇年代の図書館の発展期に入ってきた団塊世代の職員が、今の図書館の世界の中核を占めている。それらの人々は今や管理職や組合幹部へと出世し、しだいに職場の第一線を離れつつある。高踏的な理論の専門性はあっても、現場のリアルな熱気は伝わってこない。どこへいっても同世代のサロンという気がしてしまうのも私だけ

ではあるまい。いつしか私たちは図書館世界の全体からみれば、その一部分になってしまっているのだろうか。

一〇年のうちにこの職員層が退職した後、次の世代への連続的な繋がりがなくままに、あたかも恐竜の絶滅後のように大いなる断絶が起こるのだろうか。そしてまったく別種の職員の世界が、そこから生まれ出てくるのだろうか。「小形」

▼先月、引越しをしました。引越した後、区の施設を積極的に使おうと思いたち、休日は、区が開放している中学校のプールに頻繁に通っています（図書館にはまだ行っていませんが……）。平日は夕方六時から夜九時まで、土日は朝九時から夜九時まで、開放されています。温水プールで、プールサイドには監視員が4人。「す・ぼん」

に関わる以前だったら、何も考えずに泳いでいたと思うんですが、今は、「このプールを維持・運営していくのにどれくらいのお金がかかっているんだろう……」などと、考えながら泳いでいます。

引越し先は、桜並木沿いの住宅街。いまから、桜の咲く季節が楽しみです。ゆつくり花見でもしたいので、次号、12号は桜が咲く前には入稿作業を終えたい……です。「木村」

▼図書館における人的支援が重要だと繰り返し主張してきた。当たり前のことかもしれないが、人的支援によってサービスの質が確保できるからである。図書館サービスの公平性と質が確保できれば、運営母体が直営でも委託でもよい。

しかし、今の委託は、安かろう悪かろうになっていないか。質

に見合う対価は必要であり、安い労働力で質まで確保しようとするのは、虫がよすぎる。

行政のコスト削減を委託料の競争で対応することではないのか。これではサービスの質が低下するばかりではないか。公務員の接遇の悪さと民間業者の接遇の良さを比較するだけでは、質がよくなったとは言えない（重要な問題だと思いが……）。

行政が民間業者に図書館業務を委託する場合には、図書館が行う人的支援とは何かをはっきりさせ、それを行う図書館員の知識、技術、経験をきちっと評価し、それに見合う対価を支払うべきである。そうでなければ最終的には市民が損をする。「斎藤」

▼算数が苦手だ。パーセントを出すときも、どっちをどっちで割ればいいのか、よく迷ってしまう。いわゆる数字に弱い私だが、今号の「図書館のコスト」は面白かった。

お金の話は、下世話だからとか、面倒だからといった理由で、なんとなくよけて通るような感じがある。私自身も仕事以外でお金の話をするときは、相手を感

る（聞き過ぎ？）。

次号の『す・ぼん』では、今回に引き続き「コスト」というキーワードで記事をつくる予定です。きつと、他ではおおっぴらにされたことのないお金の話を紹介できると思います。どうぞお楽しみに。「佐藤」

▼今、版元ドットコムという出版社同士のあつまり（一六七ページに広告あり）の幹事会とそのアトの飲み会を終えたところだ。その飲み会で、「協力出版」

II いろいろの自費出版の是非について議論になった。

書き手からお金をとって本にして、書店にも流通させるスタイルが広がっている。そうした自費出版の出版社の年間発行点数は業界トップの講談社のそれに並ぶようになった。で、このことの是非、どう考えるのか、といういうことをいまだに決めかねている。本にして書店に並べるかどうかの判断の僕自身のポイントが、「売れるのか／出したいのか」から、書き手からの売上げで利益が出るのか、に移ってしまうんじゃないか、と自信がないから、ということが一番大きい。書店で本を見ているお客に「買ってください」と言い切れなくなってしまう気がする。

一方で、いわゆる「文化」って

やつは、一部の「プロ」だけが生み出すものではなくって、ひろくさまざまな人が生み出すようになるのがいいし、そういう方向に人間社会が動いている気がする。サッカーは、多くのアマチュアという裾野があつてプロとか、最高レベルのチームがあると思う。それを例に考えると「アマチュア」の裾野が本

の世界にも必要なんだというふうに考えるのもアリかな？ いくら「売れるのか／出したいのか」ということを考えぬいて本にしても、売れない、ということや、評価してもらえないとか、自分でも少し後悔、みたいなこともあるし。

好きな書き手の一人の竹田青嗣さんは、人間社会が経済ゲーム中心の社会から文化ゲーム中心の社会に向かつていく、みたいなことを言っていたと思う。喰うこと、生き延びることのために働く状態から、面白いこと、やりたいことのために活動（ある種の労働）する社会に変化するんだ、という意味だと思っ

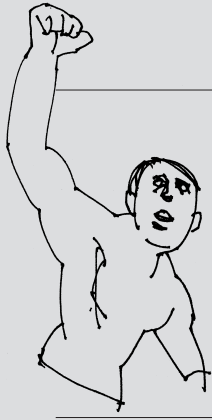
れない。そんなときにポット出版はどういう活動してるんだろうか？ できるんだろうか？ とつくに僕が死んでるころかもしれないし。まったく未来はよくわからん。で、『す・ぼん』も実は無償で編集活動に参加してくれている編集委員によって発行することができるのだ。小形さん、斎藤さん、東條さん、手嶋さん、堀さん、真々田さん、ありがとう。アタマが上がりません。「沢辺」

▼都立図書館の更なる後退が進行している。八月二五日東京都教育委員会は、「第二次都立図書館あり方検討委員会報告」都立図書館改革の基本的方向」を公表した。これは、「都立図書館あり方検討委員会（第一次報告）（二〇〇二年一月）に続くもので、「改革」を僭称してはいるが、以下のように多くの問題を孕んでいる。

①報告の出し方について

「第一次あり検報告」と同様、区市町村の意見を聴くことなく、一方的に報告書を出した。「第二次あり検報告」が区市町村立図書館との摩擦を生んだことを何ら反省することなく、同じ手法で報告を出しておきながら、事後になってパブリックコメントと称する形式的な意見募





集を行っている。

②区市町村立図書館との役割分担について

極めて平面的にしか協力貸出し等の役割分担を理解していないため、都立図書館が区市町村立図書館と連携・協力して都民にサービスをするという視点が欠けている。ましてや、「専門書等の協力貸出」に限定しようとするのが論外であることは、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(二〇〇一年七月一八日文科科学省告示第一三二号)に照らしても明らかである。

「資料の紹介、提供を行うこと」や「図書館の資料を保存すること」は勿論のこと、「市町村立図書館の求めに応じた資料保存等」の「機能に必要な施設・設備を備える」ことにも力を入れなければならないのである。

③区市町村立図書館への支援について  
「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」は、都道府県立図書館の役割は、「市町村立図書館への援助」として、「市町村立図書館の求めに応じた資料の整備」を挙げている。また、「資料の収集、提供等」として「市町村立図書館等の要求に十分応えられる資料の整備」を挙げている。更に、「市町村立図書館の求めに応じた資料保存等」の「機能に必要な施設・設備を備える」ことが求められている。

④日比谷図書館の千代田区への移管について  
全都民の財産の処分方法として大いに疑問がある。フィルムライブラリーをどうするつもりなのだろうか。

▼この数年、皇室の慶事と図書館の関係を調べていて、ずつと気になっていることがある。一九一四(大正三)年三月に、「御大札記念事業勸奨に関する件」という文部次官通牒が各地方長官に発せられたのか、どうかということ。「図書館ハンドブック」(日本図書館協会)の第4版(一九七七年)、第5版(一九九〇年)、第6版(二〇〇五年)の年表に記されている。

当時の『図書館雑誌』に記されている。大正大札時には、日本図書館協会は『図書館小識』(一九一五年)という小冊子を発行し、知事や主だった市町村に無料で配布して、図書館設立を奨励しているし、各地方では知事や議会などで大札記念に図書館を設立する建議や意見が数多く出ている。

そんな光景を距離をとりながらながめていて楽しかった。由緒ある高知県立図書館も高知市民図書館も高知城をはさんで至近の距離にあり、遠来の公務員図書館員はほかにもともと何の目当てがあるわけではなく、必然的にただ三ヶ所だけをめぐることになる。

行き来したお城の堀端では、ランニング姿のおやじ二人ほどがゆるゆると縁台将棋を囲んでしゃがんでいた。夕方からは「ひろめ市場」という屋台店にぐるりを囲まれた一角でようやく居場所ができ、同席した地元のおばあさんたちと一緒に鯉をほおばりジョッキを飲み干した。高知では、なんか不思議に祝祭的な開放感をあじわった。私にとつての珍事だった。

したという生徒、小学校でも授業中の立ち歩きなどは当たり前とか。そうした、小・中学校の生活をしてきた生徒が高校で劇的に変化するとは考えられない。そこで、「中高一貫」「少人数学級」「チーム・ティーチング」「学校選択制」など様々な試みが繰り広げられているらしい。

「マイナスのイメージを持って学校生活を終える」生徒が少なくなるようにボランティア活動をやってみようかとも思っていた。



## ず・ぼん⑦

192頁 [2001.08刊] 1800円+税  
ISBN4-939015-35-1 C0000

### ●特集 図書館で働くということ

「非常勤の未来」  
●「専門」非常勤制度という矛盾の中で/日信葉子 ●常勤職員は図書館に存在し続けられるのだろうか/小形亮  
●これからの図書館には、短時間専門職員が必要だ/本多伸行 ●東京都港区立図書館職員アンケート

### 特集 学校と図書館

●学校図書館を充実させるための取り組み/高橋由紀子 ●都内公立小中学校の図書館員に聞いてみた/アンケート  
●高校図書館が無関心エリアでなくなる? /高校図書館司書の座談会  
●図書館から先生へ異議あり!/公立図書館員の座談会 ●ワタクシは読書の種を蒔きたい/きたむらまり ●学校教育版・成長神話の破綻/岡崎勝 ●あるべき学校像を見つけるための漂流/宮崎俊郎

### 富山県立近代美術館・県立図書館問題

●美術館訴訟で考えさせられたこと/勝山敏一  
●訴訟に至るまでの経緯/堀渡

●出版流通のここがわからない/座談会  
●お道楽—酒と蕎麦の日々/新海きよみ  
●公民館の図書室から—学校や家庭以外の居場所として機能させるために/内藤弘美  
●急ぐべきなのは出版社の権利の立法化/宮田昇  
●お棚見隊見参!! ②ブックデボ書楽  
●ながおかの意見—「有害」「不健全」図書は誰が、どうやって決めているのか/長岡義幸  
●岐阜県図書館と利用者・浅野俊雄さんとの図書購入要求を巡るもめ事/佐藤智砂  
●ず・ぼんと読者



## ず・ぼん⑧

192頁 [2002.10刊] 2000円+税  
ISBN4-939015-46-7 C0000

### ●特集 都立図書館再編

14万冊がバラバラになった  
●利用者から遠くなる多摩図書館/田中ヒロ ●「あり検」報告のビジョンなき論理/守谷信二 ●これは“生き残るための”再編計画だ/奥村和広  
●今こそよって立つべき都立図書館の原則とは デポジットライブラリー構想にいたるまで/堀渡 ●14万冊の「再活用」をめぐる 町田市立図書館が5万冊預かった理由/手嶋孝典 ●請願書に署名した—利用者から幅広いメンバーで専門的な検討を/氏家正 ●都立図書館再編の経過

●巻頭座談会  
本が売れない原因を図書館のせいにするな!

●座談会 非常勤の生活と意見・非常勤職員という待遇とその給料  
●みなと図書館員本多伸行さんへの反論 低賃金構造を固定化することになりませんか? /手嶋孝典  
●インタビュー ブックカバーを作った人・倉田重夫/高橋峰子  
●本屋さんに足を運びたく話/高倉美恵

●本についての本/中山亜弓  
●ボイジャーの試み/萩野正昭  
●お道楽 酒と蕎麦の日々/新海きよみ  
●お棚見隊見参!! 第3回オリオン書房ノルテ店の巻  
●図書館の歴史を振り返る 図書館界が「紀元2600年」にかけた夢/東條文規  
●岐阜県図書館と利用者の購入要求を巡るもめごと その後 図書館大会分科会レポート 業界の「垢」がたまる一方だ/東條文規  
●調査委員会まとめ報告への異議 すべてを公開して「自由」の検証を/棚橋満雄  
●調査委員会メンバーからの報告 率直に述べたい今回の問題点/西河内靖泰



## ず・ぼん⑨

200頁 [2004.04刊] 2000円+税  
ISBN4-939015-63-7 C0000

### ●特集 図書館の委託

●[座談会] 委託はどこまで拡がるのか? /井東順一・大橋直人・小形亮・手嶋孝典・福嶋聡・本多伸行  
●座談会出席者の追加でヒトコト/大橋直人・手嶋孝典  
●目黒区労働組合が考えた「委託」に代わる業務改革案「新しい管理運営体制等」分会対置案/目黒区職員労働組合教育分会  
●図書館労働をめぐる今日/橋本策也  
●わりきれない思いが私たちの出発点だった/熊倉京子

●書店員と図書館員のおしゃべり/福嶋聡・堀渡  
●再録 本屋とコンピュータ/福嶋聡  
●南千住図書館のYAサービス子ども利用者獲得大作戦/高橋峰子  
●NHKクローズアップ現代(2002年11月17日放映)を徹底検証「ベストセラーをめぐる攻防~作家VS図書館~」の何が問題だったのか/手嶋孝典  
●多摩発・共同保存図書館(デポジット・ライブラリー)基本構想/鬼倉正敏  
●野鳥についての本/中山亜弓

●栗原均ロングインタビュー 経営的手腕をもった異色の図書館人/栗原均・東條文規・堀渡・氏家正  
●益田忠夫行動の人、そして温情の人/塩見昇



## ず・ぼん⑩

232頁 [2004.12刊] 2000円+税  
ISBN4-939015-72-6 C0000

### ●特集 図書館の委託②

●委託の契約金額・東京11区の委託料を比べてみた  
●[座談会] 受託業者として感じるやりがいと戸惑い・中野区の元非常勤がつくったNPOの今/磯村彩・大森正子・木村祐子・熊倉京子・小形亮・沢辺均  
●[座談会] 品川区と練馬区の改革案をめぐる—図書館を死なせないための委託選択と非選択/古里克夫・小形亮・堀渡・斎藤誠一・真々田忠夫・手嶋孝典・沢辺均  
●品川区と練馬区の図書館改革プラン [品川区] 魅力ある図書館づくり検討会中間報告(案)  
[練馬区] 練馬区の図書館をより充実させるために

●写真で見る図書館① 傷本  
●[座談会] 書店員×編集員・書店さん、図書館に言いたいこと言って!/塙靖沖・鎌田基道・堀渡・小形亮・真々田忠夫・沢辺均  
●書籍探検隊が行く! 奥付の変遷を追え!! /石田豊  
●[インタビュー] 大田区立図書館「非公式ウェブサイト」制作者に聞く・図書館の非公式サイトをつくったわけ/高橋浩行・斎藤誠一・沢辺均・木村瞳  
●梅干しについての本/中山亜弓

●ロングインタビュー 東京の図書館振興を体現した人・朝倉雅彦/蛭田廣一・斎藤誠一・堀渡  
●日本出版インフラセンター(JPO)出版在庫情報整備研究委員会(情報研)の答申・出版業界の書誌・在庫情報整備の現状

### 図書館とメディアの本

## ず・ぼん バックナンバー

### 購入方法

●全国の書店でご購入いただけます。  
●ポット出版へ直接ご注文いただけます。  
●版元ドットコムからご購入いただけます。

### ●ポット出版へ直接ご注文

ポット出版に直接ご注文いただければ、送料無料で発送いたします。  
本のタイトル/冊数/お名前/郵便番号/住所/電話番号/お支払い方法(郵便振替・代引き)を明記の上、下記のいずれかの方法でご注文ください。

- ① 電話で  
0120-029936 (通話料無料)
- ② ファックスで  
0120-009936 (通信料無料)
- ③ Eメールで books@pot.co.jp
- ④ ハガキ・郵便で
- ⑤ ポット出版のウェブサイトから

### [お支払い方法]

▼郵便振替…ご注文の本と一緒に郵便振替用紙を同封します。本到着後、一週間以内にお支払いください。  
▼代引き…佐川急便の e-colect でお送りします。本と引き替えに代金をお支払いください。代引き手数料300円のご負担願います。

### ●版元ドットコムからご購入

http://www.hanmoto.com/  
版元ドットコムウェブサイトのデータベースから検索、ご購入いただけます。送料無料で発送いたします。  
[お支払い方法]

▼郵便振替…ご注文の本と一緒に郵便振替用紙を同封します。本到着後、一週間以内にお支払いください。  
▼クレジットカード…VISAカード、Masterカードが使えます。

### ポット出版

〒150-0001 渋谷区神宮前2-33-18 #303  
Phone 03-3478-1774  
Facsimile 03-3402-5558  
books@pot.co.jp  
www.pot.co.jp



## ず・ぼん①

140頁 [1994.07刊] 2000円+税  
ISBN4-939015-04-1 C0000

●ず・ぼんの夢／堀渡

●特集  
ある「自画像」の受難

—富山県立近代美術館・図書館事件

●遠近を抱えてVII・VIII・X1982-85 / 大浦信行 ●作品と図録の公開—特集の編集にあたって ●〈座談会〉20代の図書館員たちが話した ●〈インタビュー〉作家に訊く 大浦信行と「富山」 ●作品公開運動から反検閲運動へ / 小倉利丸 ●「クレーム」と「意見」はどう違うの / 藤江民 ●菊のタブーは存在する / 松本直治 ●大浦作品の売却と図録焼却のころ / 伊集院渉 ●顔のない女のヌードと、名前のない「フェミニスト」 / きたはらめぐみ ●「反対」と「静観」のあいだ / 高松久子 ●芸術と討論と天皇制について / 鈴木邦男 ●美術館のねじれた尻尾 / 三頭谷鷹史 ●偏在する公立美術館の現状と課題 / 雨宮藤彦 ●空洞…主体とことばがないゆえの / 大泉ひがし ●富山県立図書館の図録非公開と資料損壊事件について / 石塚栄二 ●沈黙は孤立を深める / 東條文規 ●市民の権利としての「図書館の自由」 / 青木爽平 ●〈編集委員会座談会〉で、何ができたんだらうか ●富山事件年表 ●マッカルデン事件とカリフォルニア図書館協会 / 川崎良孝 ●図書館を考えるために—選書について / 根本彰 ●このころの出版流通 『週刊金曜日』の流通 / 長岡義幸 出版流通をめぐる願望と成果 / 北川明 ●このころの図書館業界 どうなる!? 調布の財団委託 / 山口源治郎 / 横川武志 / 小池信彦 / 手嶋孝典 ●図書館にみえる困ったやつ / としょかん・太郎 ●図書館人のための整体診療室① / 佐藤朋弥・長浜哲 ●わたしの図書館うちゅう① / 新海きよみ ●本の源流 / 藤島二三夫 ●アフリカダイコのつくり方 / 駒沢レオ ●あなたの図書館体験 ●サビプロ—北海道の出版社



## ず・ぼん②

192頁 [1995.07刊] 2000円+税  
ISBN4-939015-05-X C0000

●特集  
メディアと差別

—ガイドラインを考える

●出版・図書館の立場から / 湯浅俊彦 / 胸永等 ●差別是正のためのガイドライン マグローヒル社 / ケンブリッジ大学出版局 / 世界教会協議会 / 動くゲイとレスビアンの会 / 東京都生活文化局 ●ガイドラインの可能性 武田春子 / 斎藤正美 / れいのるず=秋葉かつえ / 田中和子 / 伊田広行 / 内野正幸 / 浅見克彦 ●メディアにおける差別と偏見 ジョン・G・ラッセル / 大塚和夫 / 藤井幸之助 / 吉野直 / 西定春 / 生瀬克己 / 吉田智弥 / 天笠啓祐 / 柴谷篤弘

●本を創る 〈装丁談義〉原研哉・清水良洋 『試練が人を磨く』の装丁 / 清水良洋 ●マルコポーロ廃刊 「ナチ『ガス室』はなかった」の論理を検証する / 西岡昌紀・橋爪大三郎 私を取材していった人たちについて / 西岡昌紀 廃刊事件で残された課題 / 長岡義幸 ●オーム事件と国会図書館 / 堀渡 ●わたしの図書館うちゅう② / 新海きよみ ●図書館人のための整体診療室② / 佐藤朋弥 ●「児童文学」というマジック / 野上暁 ●阪神大震災と情報誌 / 井上はねこ ●再販見直しはほんとうに危機か? / 長岡義幸 ●図書館にみえる困ったやつ / としょかん次郎 ●ず・ぼんアンケート ●サビプロ—沖縄の出版社 ●ず・ぼんのつきあい ●ず・ぼんへの手紙



## ず・ぼん③

152頁 [1996.09刊] 1800円+税  
ISBN4-939015-07-6 C0000

●特集  
図書館人が植民地でやったこと

●植民地での全国図書館大会 / 東條文規 ●植民地図書館の三つのエピソード / 河田いこひ ●図書館人の戦争責任意識 / 東條文規 ●旧植民地図書館活動の研究をめぐる / 加藤一夫 ●年表

●〈選書座談会〉公共図書館の本の買い方選び方 ●〈装丁談義〉坂川栄治・清水良洋 ●富山県立図書館問題その後 自主規制の増殖は図書館の自死に及ぶか / 中河伸俊 富山県立図書館図録問題の新展開 / 石塚栄二 ●図書館にみるこまったやつ / としょかん・花子 ●小児病院の図書サービス・カリヨン文庫 / 佐藤智砂 ●新刊屋から見た古本屋 / 穴戸立夫 (三月書房) ●わたしの図書館宇宙③ / 新海きよみ ●カレーの作り方 / 鈴木麻子 ●日本図書館協会における「図書館の自由」の二重性 / 手嶋孝典 ●SUPER DEAD ANGLES / 細野幸人 ●本を選ぶ、思想を選ぶ / 山辺進 ●再販制擁護・堅持論者への疑問 / 長岡義幸 ●サビプロ—東京三多摩の出版社 ●東京三多摩の出版状況 / 五味正彦



## ず・ぼん④

168頁 [1997.12刊] 1800円+税  
ISBN4-939015-11-4 C0000

●特集  
どうする、どうなる? 大学図書館

—住民利用・電子化をめぐる ●使える大学図書館はどこにある 26の大学図書館に訊いた 個人が利用できる全国の大学図書館 ●大学図書館の開放を阻むものは何か / 大串夏身 ●四国学院大学図書館での経験を通して / 東條文規 ●地域社会に開かれたアメリカの大学図書館 / 吉本秀子 ●私たちが使ってます / 黒沢義輝 / 鈴木茂夫 / 西野入良香 ●コラム「大学図書館の開放度はどんなもん?」 法政大学多摩図書館の場合 東北大学附属図書館本館の場合 ●洋書の小売業者から見た大学図書館 / 某洋書小売書店営業担当者+湯浅俊彦 ●電算化は大学図書館をどのように変えたか / 東京大学総合図書館職員組合有志 ●私が図書館に望むこと / 橋爪大三郎

●『ず・ぼん』データ消滅のミステリー / 長岡義幸 ●植民地満洲・淪陥14年 その研究の中の図書館 / くるこ・つねお ●山谷労働者と公共図書館 図書館を考えるために / 山口真也 ●東アジアの一員として本を贈る 韓国国立図書館への図書寄贈 / 滝尾英二 ●卑屈にして巧妙な検閲「ピンクチラシ印刷拒絶」は「清潔なファシズム」だ / 前田年昭 ●わたしの図書館宇宙④ / 新海きよみ ●図書館にくる困ったやつ / としょかん三郎 ●「言論・出版・表現・流通の自由」って? / 長岡義幸 ●図書館員になるまでとなつてから / 河田隆 ●読者の意見



## ず・ぼん⑤

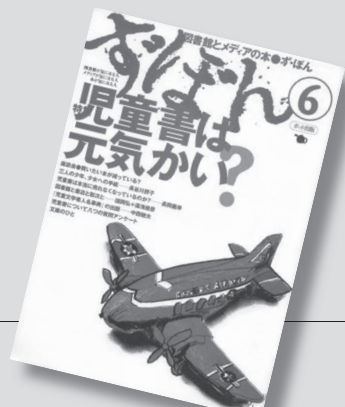
160頁 [1998.10刊行] 1800円+税  
ISBN4-939015-17-3 C0000

●特集  
破天荒な図書館人・浪江虔

●ロングインタビュー 私立図書館を五十年やってきた / 浪江虔・手嶋孝典・東條文規・堀渡 ●浪江虔夫妻との交友 / 山代巴 ●私立南多摩農村・私立鶴川図書館の活動の軌跡 ●浪江虔のこれまでの歩み (年譜) ●紙ベースの本はホントになくならないと安心できるのか / 石田豊 ●アメリカの医学データベース「メドライン」の無料公開 / 岡部一明 ●データベースの日本書籍総目録をつくる / 本間広政 ●図書館の特性を知って本を売る / 尾下千秋 ●鈴木一誌 装丁・造本 デザイナーの仕事 / 鈴木一誌・清水良洋

●図書館で働く人の専門性と身分とは? 【練馬区の場合】 図書館協力員のひとりとして / 田中まゆみ 協力員制度導入から十一年目の組合結成 / 橋本匡子 非正規職員は正規職員を越えていくのか / 小形亮 【町田市の場合】 独自の専門職制度をつくるための試み / 守谷信二 専門職員の在り方を検討する / 都築正春 専門職問題に関わる双方の不十分さ / 宮崎淳子

●少年法騒動と図書館 / としょかん松子 ●本の再販制度についてのアンケート / ず・ぼん編集部 ●中堅図書館員の栄光と悲哀 / 新海きよみ ●出版業界で生き抜くための「処世術」とは / 長岡義幸



## ず・ぼん⑥

160頁 [1999.12刊] 1800円+税  
ISBN4-939015-23-8 C0000

●特集  
児童書は元気かい?

●読書をめぐる三人の少年、少女への手紙 / 長谷川摂子 ●〈座談会〉買いたい本が減っている? / 新井彩子 / 大場絹代 / 荻野準二 / 黒石耀子 / 北村まり / 新海きよみ / 内藤弘美 / 野上暁 / 平井拓 / 舟崎克彦 / 柳原周 / 堀渡 ●〈インタビュー〉児童書について八つの質問 / ず・ぼん編集部 ●児童書は本当に売れなくなっているのか? / 長岡義幸 ●文庫のひと 自分を認めてくれる親以外の大人に恵まれた / 庄野宏美 おじさん混ざっているから面白い? 嗚呼、気まぐれ文庫連 / 吉田正彦 やっぱ「おはなしのおぼさん」はやめられない / 伊藤代 本を借りに来るだけの場所じゃない / 伊藤優子 資金づくりの始めた「市」が「文庫まつり」になって地域に定着 / 富本京子 一人の母親のつぶやきから始まったバスの図書館 / 宮崎淳子 ●図書館と書店と取次と / 諸岡弘+湯浅俊彦 ●『児童文学者人名事典』シリーズの出版に携って / 中西敏夫 ●境界人、菅原峻の途中総括助言者という選択 / 菅原峻 ●情熱を内に秘めた芸術家 / 西川馨 ●浪江虔を偲んで 元私立鶴川図書館を訪ねる / ず・ぼん編集部 ●浪江虔インタビューに載せなかったはなし 「羽仁問題」の真相 / 東條文規 ●図書館スキ? キライ? / 石田豊 ●立川市図書館のこだわり インターネットをレファレンスツールとして / 斎藤誠一 ●ひとりの学校司書が語る 風景としての高校図書館 / 真々田忠夫 ●町田市立図書館が嘱託員制度を導入するまで / 手嶋孝典 ●図書館の現場から市民と利用者との間に / 小形亮 ●わたしの図書館宇宙⑥ / 新海きよみ ●お棚拝見隊①八重洲ブックセンターの巻 / お棚拝見隊



---

図書館とメディアの本  
ず・ぼん⑪

●ず・ぼん編集委員会  
小形 亮/木村 隼/齋藤誠一/佐藤智砂/沢辺 均  
手嶋孝典/東條文規/堀 渡/真々田忠夫

●編集協力  
五賀雅子/那須ゆかり

●デザイン  
沢辺 均/山田信也/齊藤美紀

●イラスト  
塩井浩平(表紙) /竹下萬平(挿絵)

●発行  
2005年11月5日[第一版・第一刷]

●定価  
2,000円+税

●発行所  
ポット出版  
150-0001 東京都渋谷区神宮前2-33-18#303  
電話 03-3478-1774 ファックス 03-3402-5558  
ウェブサイト <http://www.pot.co.jp/>  
電子メールアドレス [books@pot.co.jp](mailto:books@pot.co.jp)  
郵便振替口座 00110-7-21168 ポット出版

●印刷・製本  
株式会社シナノ

ISBN4-939015-82-3 C0000

The ZU-BON 11  
Edited by the editorial of ZU-BON

Editor:OGATA Ryo/KIMURA Hitomi/SAITO Seiichi  
SATO Chisa/SAWABE Kin/TEJIMA Takanori  
TOJO Fuminori/HORI Wataru/MAMADA Tadao  
GOGA Masako/NASU Yukari

Designer:SAWABE Kin/YAMADA Shinya/SAITOU Minori  
Illustrator:SHIOI Kouhei (Cover) /TAKESHITA Bampei

First published in Tokyo Japan, Nov. 5, 2005  
by Pot Pub. Co., Ltd.  
#303 2-33-18 Jingumae Shibuya-ku Tokyo, 150-0001 JAPAN  
E-mail: [books@pot.co.jp](mailto:books@pot.co.jp) <http://www.pot.co.jp/>  
Postal transfer: 00110-7-21168

ISBN4-939015-82-3 C0000

#### 【書籍情報】

書籍DB●刊行情報  
1 データ区分——1  
2 ISBN——4-939015-82-3  
3 分類コード——0000  
4 書名——ず・ぼん11  
5 書名ヨミ——ズ・ボン11  
7 副題——図書館のコスト・船橋西図書館事件  
8 副題ヨミ——トショカンノコスト・フナバシニシトショカンジケン  
10 叢書名・シリーズ名——図書館とメディアの本  
11 叢書名・シリーズ名ヨミ——トショカントメディアノホン  
13 著書名1——ず・ぼん編集委員会  
14 種類1——編  
15 著書名1ヨミ——ズ・ボンヘンシュウイインカイ  
22 出版年月日——200511  
23 書店発売日——20051105  
24 版型——B5版  
25 ページ数——192  
27 本体価格——2000  
33 出版社——ポット出版  
39 取引コード——3795

本文●淡クリーム琥珀/B判/65kg 刷り●スミ  
表紙●アビス・ホワイト/菊/Y/90.5kg 刷り●プロセス4色/特色1色 DIC C-275 (中国の伝統色ユワンチン)  
加工●マットPP  
使用書体●ヒラギノ明朝、游樂見出し明朝、游樂かな、もじくみ仮名SH版、  
ヒラギノ角ゴ、ゴシックMB101、游樂初号ゴチックかな  
PFruiter, PCaramond, Goudy 2005-0101-3.0

---